

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2017-196114

(P2017-196114A)

(43) 公開日 平成29年11月2日 (2017.11.2)

(51) Int.Cl. F 1 テーマコード (参考)
A 6 3 H 33/08 (2006.01) A 6 3 H 33/08 Z 2 C 1 5 0

審査請求 未請求 請求項の数 6 O L (全 11 頁)

(21) 出願番号	特願2016-88804 (P2016-88804)	(71) 出願人	390020019
(22) 出願日	平成28年4月27日 (2016. 4. 27)		レック株式会社
			東京都中央区日本橋浜町三丁目 1 5 番 1 号
		(74) 代理人	100092680
			弁理士 入江 一郎
		(72) 発明者	竹 田 憲 正
			東京都中央区日本橋浜町三丁目 1 5 番 1 号
			レック株式会社内
		F ターム (参考)	2C150 AA12 BA23 BA26 EH09 EH16

(54) 【発明の名称】 玩具ブロック構造体

(57) 【要約】

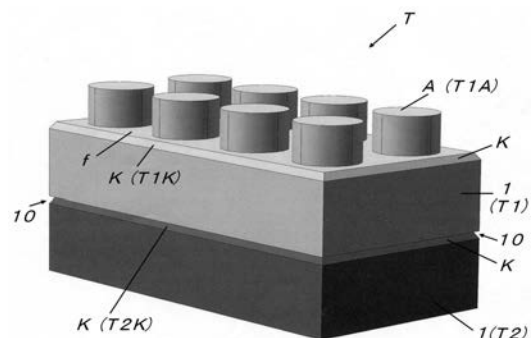
【課題】

本発明の目的は、容易に分離することができる玩具ブロック構造体を提供するものである。

【解決手段】

玩具ブロック構造体Tは、凹凸部を有する玩具ブロック1を嵌合して形成する玩具ブロック構造体Tであって、玩具ブロック構造体Tの隣接する一方の玩具ブロック1 (T1) と隣接する他方の玩具ブロック2 (T2) との境界部に手の爪が入る隙間10が形成されているものである。

【選択図】 図2



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

凹凸部を有する玩具ブロックを嵌合して形成する玩具ブロック構造体であって、
前記玩具ブロック構造体の隣接する一方の玩具ブロックと隣接する他方の玩具ブロックとの境界部に手の爪が入る隙間が形成されている
ことを特徴とする玩具ブロック構造体。

【請求項 2】

玩具ブロック構造体の隣接する一方の玩具ブロックの底面の側に設けられた凹部に隣接する他方の玩具ブロックの頂面の側に設けられた凸部が嵌合して前記玩具ブロック構造体を形成するものであり、

隣接する前記他方の玩具ブロックの頂面の角部がテーパ面又はアール面又は前記頂面より低い面に形成されて、前記玩具ブロック構造体の隣接する前記一方の玩具ブロックと隣接する前記他方の玩具ブロックとの境界部に手の爪が入る隙間が形成されている

ことを特徴とする請求項 1 記載の玩具ブロック構造体。

【請求項 3】

玩具ブロック構造体の隣接する一方の玩具ブロックの底面の側に設けられた凹部に隣接する他方の玩具ブロックの頂面の側に設けられた凸部が嵌合して前記玩具ブロック構造体を形成するものであり、

隣接する前記一方の玩具ブロックの底面の角部がテーパ面又はアール面又は前記底面より高い面に形成されて、前記玩具ブロック構造体の隣接する前記一方の玩具ブロックと隣接する前記他方の玩具ブロックとの境界部に手の爪が入る隙間が形成されている

ことを特徴とする請求項 1 記載の玩具ブロック構造体。

【請求項 4】

玩具ブロック構造体の隣接する一方の玩具ブロックの底面の側に設けられた凹部に隣接する他方の玩具ブロックの頂面の側に設けられた凸部が嵌合して前記玩具ブロック構造体を形成するものであり、

隣接する前記他方の玩具ブロックの頂面の外周がテーパ面又はアール面又は前記頂面より低い面に形成され、前記玩具ブロック構造体の隣接する前記一方の玩具ブロックの底面の外周と隣接する前記他方の玩具ブロックの頂面の外周の前記テーパ面又は前記アール面又は前記頂面より低い面との間に手の爪が入る隙間が形成されている

ことを特徴とする請求項 1 記載の玩具ブロック構造体。

【請求項 5】

玩具ブロック構造体の隣接する一方の玩具ブロックの底面の側に設けられた凹部に隣接する他方の玩具ブロックの頂面の側に設けられた凸部が嵌合して前記ブロック構造体を形成するものであり、

隣接する前記一方の玩具ブロックの底面の外周がテーパ面又はアール面又は前記底面より高い面に形成され、前記玩具ブロック構造体の隣接する前記一方の玩具ブロックの底面の外周の前記テーパ面又は前記アール面又は前記底面より高い面と隣接する前記他方の玩具ブロックの頂面の外周との間に手の爪が入る隙間が形成されている

ことを特徴とする請求項 1 記載の玩具ブロック構造体。

【請求項 6】

凹凸部を有する玩具ブロックを嵌合して形成する玩具ブロック構造体であって、
前記玩具ブロックは、ベースの頂面に前記凸部を有し、ベースの頂面と反対側の底面に前記凸部に嵌合する凹部を有するものであり、

前記玩具ブロックの前記頂面より前記玩具ブロックの側面に張り出す頂面張り出し部又は前記玩具ブロックの側面より外方に張り出す外方張り出し部又は前記玩具ブロックの底面より前記玩具ブロックの側面に張り出す底面張り出し部又は前記玩具ブロックの側面に設けた側面凹所を有し、

前記頂面張り出し部又は前記外方張り出し部又は底面張り出し部又は前記側面凹所は手の爪に係止する係止部に形成されている

10

20

30

40

50

ことを特徴とする玩具ブロック構造体。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、玩具ブロック構造体に係り、特に、玩具ブロックに容易に分離することができる玩具ブロック構造体に関する。

【背景技術】

【0002】

従来、凹凸部を有する玩具ブロック、例えば、レゴブロック（登録商標）を嵌合して玩具ブロック構造体を形成している。

近時、緻密な玩具ブロック構造体を形成するために、玩具ブロック自体の大きさが小型化している。

例えば、図1（a）（b）に示すように、玩具ブロック構造体100を構成する玩具ブロック101のWの寸法は8mm、Lの寸法は31mm、Hの寸法は5mm程度となっている。

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0003】

ところが、上記図1（a）記載の玩具ブロック構造体100にあっては、玩具ブロック101を複数結合して玩具ブロック構造体100を形成し、形成後、玩具ブロック構造体100を玩具ブロック101単体に分離する場合、玩具ブロック101が小さいため、力を入れて手で玩具ブロック101を把持し難く、玩具ブロック構造体100を容易に分離することができないという問題点が生じた。

【0004】

本発明は、上記の点を考慮したなされた玩具ブロック構造体を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0005】

請求項1記載の玩具ブロック構造体は、凹凸部を有する玩具ブロックを嵌合して形成する玩具ブロック構造体であって、前記玩具ブロック構造体の隣接する一方の玩具ブロックと隣接する他方の玩具ブロックとの境界部に手の爪が入る隙間が形成されているものである。

【0006】

また、請求項2記載の玩具ブロック構造体は、請求項1記載の玩具ブロック構造体において、玩具ブロック構造体の隣接する一方の玩具ブロックの底面の側に設けられた凹部に隣接する他方の玩具ブロックの頂面の側に設けられた凸部が嵌合して前記玩具ブロック構造体を形成するものであり、隣接する前記他方の玩具ブロックの頂面の角部がテーパ面又はアール面又は前記頂面より低い面に形成されて、前記玩具ブロック構造体の隣接する前記一方の玩具ブロックと隣接する前記他方の玩具ブロックとの境界部に手の爪が入る隙間が形成されているものである。

【0007】

また、請求項3記載の玩具ブロック構造体は、請求項1記載の玩具ブロック構造体において、玩具ブロック構造体の隣接する一方の玩具ブロックの底面の側に設けられた凹部に隣接する他方の玩具ブロックの頂面の側に設けられた凸部が嵌合して前記玩具ブロック構造体を形成するものであり、隣接する前記一方の玩具ブロックの底面の角部がテーパ面又はアール面又は前記底面より高い面に形成されて、前記玩具ブロック構造体の隣接する前記一方の玩具ブロックと隣接する前記他方の玩具ブロックとの境界部に手の爪が入る隙間が形成されているものである。

【0008】

また、請求項4記載の玩具ブロック構造体は、請求項1記載の玩具ブロック構造体に

10

20

30

40

50

において、玩具ブロック構造体の隣接する一方の玩具ブロックの底面の側に設けられた凹部に隣接する他方の玩具ブロックの頂面の側に設けられた凸部が嵌合して前記玩具ブロック構造体を形成するものであり、隣接する前記他方の玩具ブロックの頂面の外周がテーパ面又はアール面又は前記頂面より低い面に形成され、前記玩具ブロック構造体の隣接する前記一方の玩具ブロックの底面の外周と隣接する前記他方の玩具ブロックの頂面の外周の前記テーパ面又は前記アール面又は前記頂面より低い面との間に手の爪が入る隙間が形成されているものである。

【0009】

また、請求項5記載の玩具ブロック構造体は、請求項1記載の玩具ブロック構造体において、玩具ブロック構造体の隣接する一方の玩具ブロックの底面の側に設けられた凹部に隣接する他方の玩具ブロックの頂面の側に設けられた凸部が嵌合して前記ブロック構造体を形成するものであり、隣接する前記一方の玩具ブロックの底面の外周がテーパ面又はアール面又は前記底面より高い面に形成され、前記玩具ブロック構造体の隣接する前記一方の玩具ブロックの底面の外周の前記テーパ面又は前記アール面又は前記底面より高い面と隣接する前記他方の玩具ブロックの頂面の外周との間に手の爪が入る隙間が形成されているものである。

【0010】

また、請求項6記載の玩具ブロック構造体は、凹凸部を有する玩具ブロックを嵌合して形成する玩具ブロック構造体であって、前記玩具ブロックは、ベースの頂面に前記凸部を有し、ベースの頂面と反対側の底面に前記凸部に嵌合する凹部を有するものであり、前記玩具ブロックの前記頂面より前記玩具ブロックの側面に張り出す頂面張り出し部又は前記玩具ブロックの側面より外方に張り出す外方張り出し部又は前記玩具ブロックの底面より前記玩具ブロックの側面に張り出す底面張り出し部又は前記玩具ブロックの側面に設けた側面凹所を有し、前記頂面張り出し部又は前記外方張り出し部又は底面張り出し部又は前記側面凹所は手の爪に係止する係止部に形成されているものである。

【発明の効果】

【0011】

請求項1記載の玩具ブロック構造体によれば、玩具ブロック構造体の隣接する一方の玩具ブロックと隣接する他方の玩具ブロックとの境界部に手の爪が入る隙間が形成されているため、隙間に手の爪を入れて、玩具ブロック構造体の隣接する一方の玩具ブロックと隣接する他方の玩具ブロックとを容易に分離することができる。

【0012】

また、請求項2記載の玩具ブロック構造体によれば、上述した請求項1記載の発明の効果に加え、隣接する他方の玩具ブロックの頂面の角部がテーパ面又はアール面又は前記頂面より低い面に形成されて、玩具ブロック構造体の隣接する一方の玩具ブロックと隣接する他方の玩具ブロックとの境界部に手の爪が入る隙間が形成されている、つまり、隙間が角部に形成されるため、隙間が意匠的に大きく目立たず、隙間に手の爪を入れて、玩具ブロック構造体を容易に分離することができる。

【0013】

また、請求項3記載の玩具ブロック構造体によれば、上述した請求項1記載の発明の効果に加え、隣接する一方の玩具ブロックの底面の角部がテーパ面又はアール面又は前記底面より高い面に形成されて、玩具ブロック構造体の隣接する一方の玩具ブロックと隣接する他方の玩具ブロックとの境界部に手の爪が入る隙間が形成されている、つまり、隙間が角部に形成されるため、隙間が意匠的に大きく目立たず、隙間に手の爪を入れて、玩具ブロック構造体を容易に分離することができる。

【0014】

また、請求項6記載の玩具ブロック構造体によれば、玩具ブロックの頂面より玩具ブロックの側面に張り出す頂面張り出し部又は玩具ブロックの側面より外方に張り出す外方張り出し部又は玩具ブロックの底面より玩具ブロックの側面に張り出す底面張り出し部又は玩具ブロックの側面に設けた側面凹所を有し、頂面張り出し部又は外方張り出し部又は

10

20

30

40

50

底面張り出し部又は側面凹所は手の爪が係止する係止部に形成されているため、係止部に手の爪を係止させて、玩具ブロック構造体の隣接する一方の玩具ブロックと隣接する他方の玩具ブロックとを容易に分離することができる。

【図面の簡単な説明】

【0015】

【図1】図1(a)は、従来の玩具ブロック構造体の概略的斜視図であり、図1(b)は、図1(a)の玩具ブロック構造体を構成する玩具ブロックの概略的斜視図である。

【図2】図2は、本発明の一実施例の玩具ブロック構造体の概略的斜視図である。

【図3】図3は、図2の玩具ブロック構造体を構成する玩具ブロックの嵌合状態を示す概略的斜視図である。

【図4】図4は、図3の玩具ブロック構造体を構成する玩具ブロックの概略的斜視図である。

【図5】図5は、図4の玩具ブロックを底面側から見た概略的斜視図である。

【図6】図6は、図2の玩具ブロック構造体と異なる他の実施例の玩具ブロック構造体の概略的斜視図である。

【図7】図7は、図6の玩具ブロック構造体を構成する玩具ブロックの概略的斜視図である。

【図8】図8は、図6の玩具ブロック構造体と異なる他の実施例の玩具ブロック構造体の概略的斜視図である。

【図9】図9は、図8の玩具ブロック構造体を底面側から見た概略的斜視図である。

【図10】図10は、図8の玩具ブロック構造体を構成する玩具ブロックの概略的斜視図である。

【図11】図11は、図10の玩具ブロックと異なる他の実施例の玩具ブロックの概略的斜視図である。

【図12】図12は、図11の玩具ブロックと異なる他の実施例の玩具ブロックの概略的斜視図である。

【図13】図13は、図12の玩具ブロックと異なる他の実施例の玩具ブロックの概略的斜視図である。

【図14】図14は、図13の玩具ブロックと異なる他の実施例の玩具ブロックの概略的斜視図である。

【図15】図15は、図14の玩具ブロックと異なる他の実施例の玩具ブロックの概略的斜視図である。

【図16】図16は、図15の玩具ブロックと異なる他の実施例の玩具ブロックの概略的斜視図である。

【発明を実施するための形態】

【0016】

本発明の一実施例の玩具ブロック構造体を図面（図2乃至図5）を参照して説明する。

図2に示すTは玩具ブロック構造体で、玩具ブロック構造体Tは、図4及び図5に示す凹凸部を有する玩具ブロック1を嵌合して形成されるものである。

玩具ブロック構造体Tは、例えば、玩具ブロック構造体Tの隣接する一方の玩具ブロック1(T1)の底面d(T1d)の側に設けられた凹部a(T1a)に隣接する他方の玩具ブロック1(T2)の頂面f(Tf2)の側に設けられた凸部A(T2A)が嵌合して形成するものである。

なお、図2及び図3に示すA(T1A)は、一方の玩具ブロック1(T1)の頂面fの側に設けられた凸部である。

そして、玩具ブロック構造体Tの隣接する一方の玩具ブロック1(T1)と隣接する他方の玩具ブロック1(T2)との境界部に手の爪が入る隙間10が形成されている。

そのため、玩具ブロック構造体Tを玩具ブロック1単体に分離したい場合には、隙間10に手の爪を入れて、玩具ブロック構造体Tの隣接する一方の玩具ブロック1(T1)

10

20

30

40

50

と隣接する他方の玩具ブロック 1 (T 2) とを容易に分離することができる。

【0017】

隙間 10 は、具体的には、例えば、以下に示すようにして形成する。

即ち、玩具ブロック構造体 T の隣接する他方の玩具ブロック 1 (T 2) の頂面 f (T 2 f) の外周が全周に亘ってテーパ面 K (T 2 K) に形成され、玩具ブロック構造体 T の隣接する一方の玩具ブロック 1 (T 1) の底面 d (T 1 d) の外周全周と隣接する他方の玩具ブロック 1 (T 2) の頂面 f (T 2 f) の外周全周のテーパ面 K (T 2 K) との間に手の爪が入る隙間 10 が形成されている。

【0018】

図 2 記載の玩具ブロック構造体 T によれば、玩具ブロック構造体 T の隣接する一方の玩具ブロック 1 (T 1) の底面 d (T 1 d) の外周全周と隣接する他方の玩具ブロック 1 (T 2) の頂面 f (T 2 f) の外周全周のテーパ面 K (T 2 K) との間に手の爪が入る隙間 10 が形成されているため、隙間 10 が全周に設けられている分、隣接する一方の玩具ブロック 1 (T 1) と隣接する他方の玩具ブロック 1 (T 2) との境界部の何れの位置からでも爪を入れて玩具ブロック構造体 T を容易に分離することができる。

【0019】

なお、本実施例の隙間 10 を構成するテーパ面 K (T 1 K T 2 K) を、玩具ブロック 1 (T 1 T 2) の頂面 f の外周全周に亘って設けたが、本願発明にあっては、これに限らず、例えば、図示しないが、テーパ面 K (T 1 K T 2 K) は、玩具ブロック 1 (T 1 T 2) の頂面 f の外周の一部に形成しても良く、

また、本実施例の隙間 10 を構成するテーパ面 K (T 1 K T 2 K) を、玩具ブロック 1 (T 1 T 2) の頂面 f の外周全周に亘って設けたが、本願発明にあっては、これに限らず、例えば、図示しないが、テーパ面 K (T 1 K T 2 K) を、玩具ブロック 1 (T 1 T 2) の底面 d (T 1 d T 2 d) の外周全周にわたって設けても良く、また、テーパ面 K (T 1 K T 2 K) を、玩具ブロック 1 (T 1 T 2) の底面 d (T 1 d T 2 d) の外周の一部に形成しても良い。

また、本実施例の隙間 10 を構成するテーパ面 K (T 2 K) は、本願発明にあっては、これに限らず、例えば、アール面 (図示せず) としても良い。アール面 (図示せず) は、テーパ面 K (T 2 K) と同様、玩具ブロック 1 (T 1 T 2) の頂面 f の外周全周に亘って設けても良く、玩具ブロック 1 (T 1 T 2) の頂面 f の外周の一部でも良く、玩具ブロック 1 (T 1 T 2) の底面 d (T 1 d T 2 d) の外周全周にわたって設けても良く、玩具ブロック 1 (T 1 T 2) の底面 d (T 1 d T 2 d) の外周の一部でも良い。

【0020】

次に、図 6 及び図 7 を参照して、上述と異なる構成による隙間 10 について、説明する。

即ち、隣接する他方の玩具ブロック 1 (T 2) の頂面 f (T 2 f) の外周部が全周にわたって頂面 f (T 2 f) より低い面 g (T 2 g) に形成され、玩具ブロック構造体 T の隣接する一方の玩具ブロック 1 (T 1) の底面 d (T 1 d) の外周全周と隣接する他方の玩具ブロック 1 (T 2) の頂面 f (T 2 f) より低い面 g (T 2 g) との間に手の爪が入る隙間 10 が形成されている

【0021】

この玩具ブロック構造体 T によれば、隣接する他方の玩具ブロック 1 (T 2) の頂面 f (T 2 f) の外周部が全周にわたって頂面 f (T 2 f) より低い面 g (T 2 g) に形成され、玩具ブロック構造体 T の隣接する一方の玩具ブロック 1 (T 1) の底面 d (T 1 d) の外周全周と隣接する他方の玩具ブロック 1 (T 2) の頂面 f (T 2 f) より低い面 g (T 2 g) との間に手の爪が入る隙間 10 が形成されているため、隙間 10 が全周に設けられている分、隣接する一方の玩具ブロック 1 (T 1) と隣接する他方の玩具ブロック 1 (T 2) との境界部の何れの位置からでも爪を入れて玩具ブロック構造体 T を容易に分離することができる。

【0022】

図 6 及び図 7 記載の玩具ブロック構造体 T にあっても、上述図 2 記載の玩具ブロック構造体 T と同様、隣接する一方の玩具ブロック 1 (T 1) の底面 d (T 1 d) の側に設けられた凹部 (図示しないが、図 5 記載の凹部 a と同様のものである。) に隣接する他方の玩具ブロック 1 (T 2) の頂面 f (T 2 f) の側に設けられた凸部 A (T 2 A) が嵌合して玩具ブロック構造体 T を形成するものである。

なお、本実施例の隙間 10 を構成する頂面 f (T 1 f T 2 f) の外周が全周に亘って頂面 f (T 1 f T 2 f) より低い面 g (T 1 g T 2 g) に形成されたが、本願発明にあっては、これに限らず、例えば、図示しないが、隙間 10 を構成する頂面 f (T 1 f T 2 f) の外周の一部が頂面 f (T 1 f T 2 f) より低い面 g (T 1 g T 2 g) に形成されるようにしても良く、

また、本実施例の隙間 10 を構成する要素として、頂面 f (T 1 f T 2 f) より低い面 g (T 1 g T 2 g) に形成したが、本願発明にあっては、これに限らず、例えば、図示しないが、玩具ブロック 1 (T 1 T 2) の底面 d (T 1 d T 2 d) の外周部が全周にわたって底面 d (T 1 d T 2 d) より高い面に形成されても良く、また、玩具ブロック 1 (T 1 T 2) の底面 d (T 1 d T 2 d) の外周の一部が底面 d (T 1 d T 2 d) より高い面に形成されるようにしても良い。

【0023】

次に、図 8 乃至図 10 を参照して、上述と異なる構成による隙間 10 について、説明する。

即ち、隣接する他方の玩具ブロック 1 (T 2) の頂面 f の角部がテーパ面 K' に形成されて、玩具ブロック構造体 T の隣接する一方の玩具ブロック 1 (T 1) と隣接する他方の玩具ブロック 1 (T 2) との境界部に手の爪が入る隙間 10 が形成されている。

この図 8 及び図 9 記載の玩具ブロック構造体 T によれば、隙間 10 が角部に形成されるため、隙間 10 が意匠的に大きく目立たず、隙間 10 に手の爪を入れて、玩具ブロック構造体 T を容易に分離することができる。

図 8 及び図 9 記載の玩具ブロック構造体 T にあっても、上述図 2 記載の玩具ブロック構造体 T と同様、隣接する一方の玩具ブロック 1 (T 1) の底面 d の側に設けられた凹部 a に隣接する他方の玩具ブロック 1 (T 2) の頂面 f の側に設けられた凸部 A が嵌合して玩具ブロック構造体 T を形成するものである。

【0024】

なお、図 10 記載にあっては、テーパ面 K' を頂面 f の角部 (本実施例では、4 カ所の角部) に形成したが、本願発明にあっては、これに限らず、例えば、図示しないが、底面 d の角部 (4 カ所の角部) にテーパ面 K' を形成しても良い。

また、頂面 f の角部にテーパ面 K' を形成したが、本願発明にあっては、これに限らず、例えば、図示しないが、頂面 f の角部にアール面を形成しても良いと共に、前記アール面を頂面 f の角部に変えて底面 d の角部 (4 カ所の角部) に形成しても良い。

また、図 10 記載にあっては、頂面 f の角部にテーパ面 K' を形成したが、本願発明にあっては、これに限らず、例えば、図 11 に示すように、頂面 f より低い面 g' に形成しても良く、また、図 11 記載の頂面 f より低い面 g' を図示しないが、底面 d の角部に形成しても良く、底面 d の角部の場合、底面 d より高い面となる。

【0025】

次に、図 12 乃至図 15 を参照して、上述と異なる構成による手の爪に係止する係止部について、説明する。

図 12 乃至図 15 記載の玩具ブロック 1 は、上述の玩具ブロック 1 と同様に、玩具ブロック 1 は、ベースの頂面 f に凸部 A を有し、ベースの頂面 f と反対側の底面 d に凸部 A に嵌合する凹部 (凹部は、図示しないが、図 5 記載の凹部 a と同様のものである。) を有するもので、例えば、一方の玩具ブロック 1 の底面 d の側に設けられた凹部 (凹部は、図示しないが、図 5 記載の凹部 a と同様のものである。) に隣接する他方の玩具ブロック 1 の頂面 f の側に設けられた凸部 A が嵌合して、上述したと同様の玩具ブロック構造体 T を形成するものである。

10

20

30

40

50

図 1 2 に示す G 1 は、玩具ブロック 1 の頂面 f より玩具ブロック f の側面 i に張り出す頂面張り出し部で、頂面張り出し部 G 1 は手の爪が係止する係止部に形成されている。

この係止部、つまり、頂面張り出し部 G 1 に手の爪を係止させて、玩具ブロック構造体 T の隣接する一方の玩具ブロック 1 と隣接する他方の玩具ブロック 1 とを容易に分離することができるようにしている。

なお、図 1 2 において、頂面張り出し部 G 1 は、頂面 f の全周に亘って形成されているが、図示しないが、頂面張り出し部 G 1 は、頂面 f の全周の一部に形成されるようにしても良い。

【0026】

また、図 1 3 に示す G 2 は、玩具ブロック 1 の側面 i より外方に張り出す外方張り出し部で、外方張り出し部 G 2 は手の爪が係止する係止部に形成されている。

この係止部、つまり、外方張り出し部 G 2 に手の爪を係止して、玩具ブロック構造体 T の隣接する一方の玩具ブロック 1 と隣接する他方の玩具ブロック 1 とを容易に分離することができるようにしている。

なお、図 1 3 において、外方張り出し部 G 2 は、側面 i の全周に亘って形成されているが、図示しないが、外方張り出し部 G 2 は、側面 i の全周の一部に形成されるようにしても良い。

【0027】

また、図 1 4 に示す G 3 は、玩具ブロック 1 の底面（図 1 2 及び図 1 3 に示す底面 d）より玩具ブロック 1 の側面 i に張り出す底面張り出し部で、底面張り出し部 G 3 は手の爪が係止する係止部に形成されている。

この係止部、つまり、底面張り出し部 G 3 に手の爪を係止させて、玩具ブロック構造体 T の隣接する一方の玩具ブロック 1 と隣接する他方の玩具ブロック 1 とを容易に分離することができるようにしている。

なお、図 1 4 において、底面張り出し部 G 3 は、底面（図 1 2 及び図 1 3 に示す底面 d）の全周に亘って形成されているが、図示しないが、底面張り出し部 G 3 は、底面の全周の一部に形成されるようにしても良い。

【0028】

また、図 1 5 に示す G 4 は、玩具ブロック 1 の側面 i に設けた側面凹所で、側面凹所 G 4 は手の爪が係止する係止部に形成されている。

この係止部、つまり、側面凹所 G 4 に手の爪を係止させて、玩具ブロック構造体 T の隣接する一方の玩具ブロック 1 と隣接する他方の玩具ブロック 1 とを容易に分離することができるようにしている。

なお、図 1 5 において、側面凹所 G 4 は、側面 i の全周に亘って形成されているが、図示しないが、側面凹所 G 4 は、側面 i の全周の一部に形成されるようにしても良い。

【0029】

次に、玩具ブロック構造体 T の分離方法を図 1 6 を参照して説明する。

上述した実施例においては、隙間 1 0 に手の爪を入れて、玩具ブロック構造体 T の隣接する一方の玩具ブロック 1（T 1）と隣接する他方の玩具ブロック 1（T 2）とを容易に分離するようにしたが、本願発明にあっては、これに限らず、例えば、図 1 6 記載の玩具ブロック 1 であっても良い。

即ち、上述図 2 記載の実施例と同様に、凹凸部 a（凹部 a は、図 5 記載と同様のものである。）、A を有する玩具ブロック 1 を嵌合して形成する玩具ブロック構造体 T であるが、この実施例の玩具ブロック 1 にあっては、図 1 6 に示すように、頂面 f に頂面 f を貫通する貫通孔 h を設けるようにする。

そして、上述図 2 記載の実施例と同様に、玩具ブロック構造体 T の隣接する一方の玩具ブロック 1 の底面 d の側に設けられた凹部 a に隣接する他方の玩具ブロック 1 の頂面 f の側に設けられた凸部 A が嵌合して玩具ブロック構造体 T を形成するものである。

玩具ブロック構造体 T を玩具ブロック 1 単体に分離したい場合には、一方の手（例えば、右手）に持った工具（図示せず）の引っ掛け部（例えば、図示しない引っ掛け部の先

10

20

30

40

50

端がV字形状又はL字形状となっている。)を貫通孔hを介して玩具ブロック1の頂面fの裏面に引っ掛け、隣接する他方の玩具ブロック1を他方の手(例えば、左手)で挟持し、一方の手と他方の手を隣接する一方の玩具ブロック1と隣接する他方の玩具ブロック1とが離間する方向へ作用させて、玩具ブロック構造体Tを分離させることができる。

なお、図16の実施例においては、貫通孔hを頂面fを貫通させたが、本願発明にあっては、これに限らず、図示しないが、側面iを貫通させる貫通孔としても良い。

【0030】

なお、上述した玩具ブロック1は、望ましくは、底面から凸部までの高さが5mm未満に好適であり、より望ましくは、3.2mmより未満の玩具ブロック1に好適である。

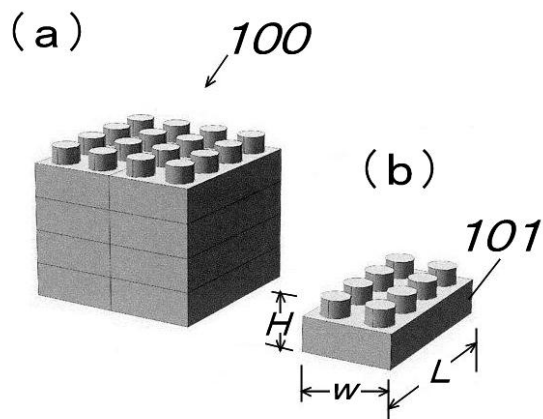
【符号の説明】

【0031】

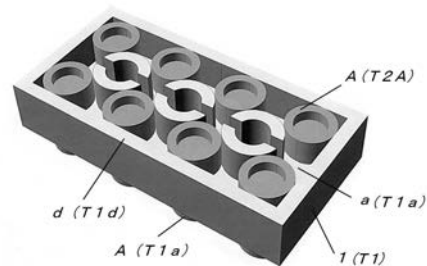
T	玩具ブロック構造体
1	玩具ブロック
T1	一方の玩具ブロック
T2	他方の玩具ブロック
10	隙間

10

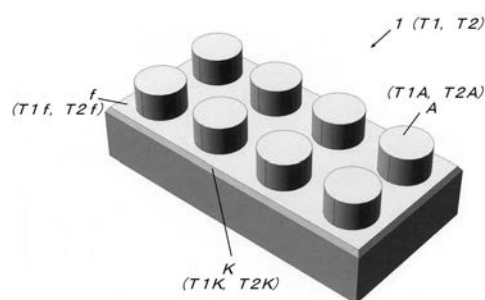
【図1】



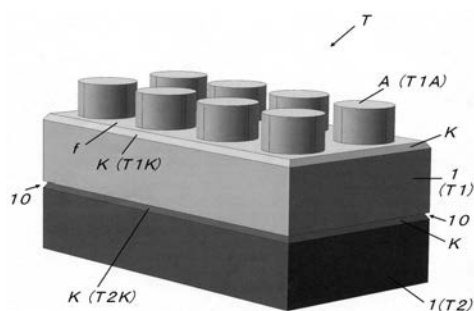
【図3】



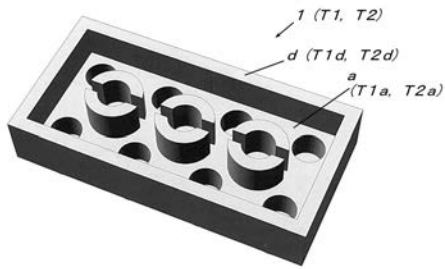
【図4】



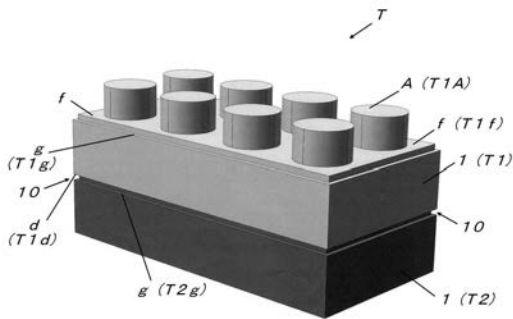
【図2】



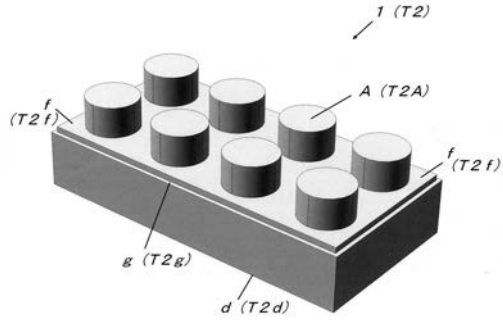
【図 5】



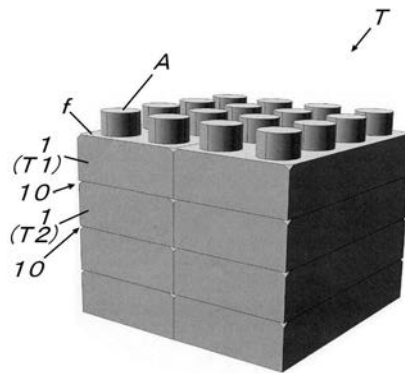
【図 6】



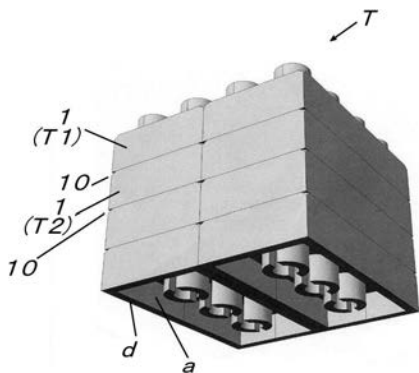
【図 7】



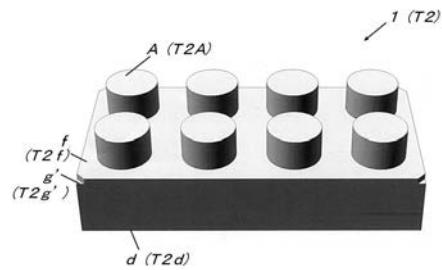
【図 8】



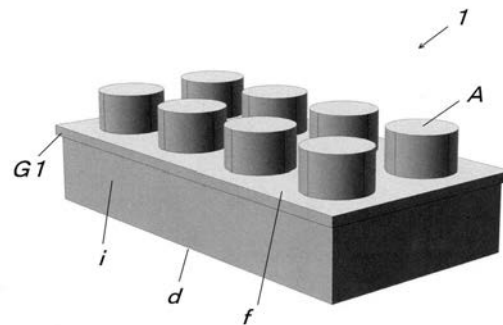
【図 9】



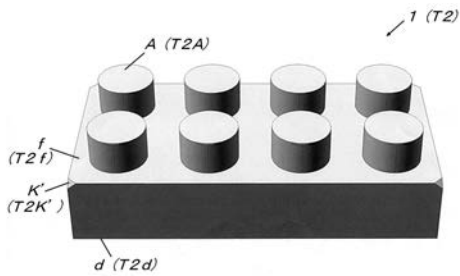
【図 11】



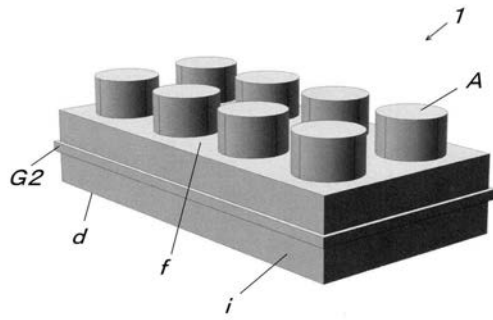
【図 12】



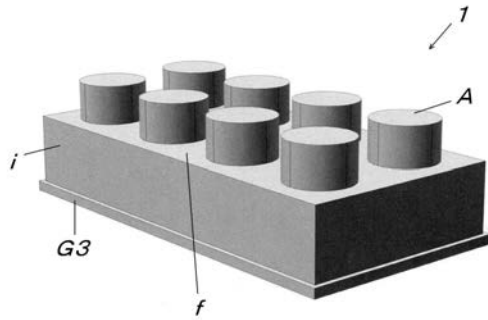
【図 10】



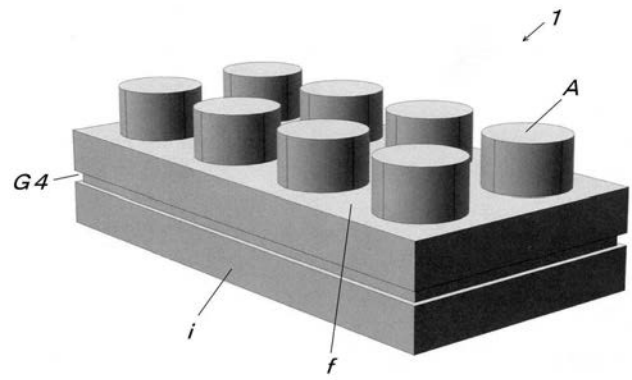
【図 13】



【図 14】



【図 15】



【図 16】

